

# ひまわり



草刈りがんばってます！(第三かめおか作業所)

## もくじ

- 2 情勢 コロナ禍と社会福祉
- 3 みんなの“思い”届けました！  
ちょっと聞いてよ！(第27回)
- 4・5 コロナに負けずがんばってます！
- 6 7 亀岡福祉会決算報告
- 8 第三かめおか作業所に新しい車が来ました！  
・時・ご寄付

## 社会福祉法人 亀岡福祉会

○法人本部：〒621-0033 京都府亀岡市蔭田野町佐伯大門30-1

TEL:0771-24-2596 FAX:0771-24-2597

HP <http://www.kamecomyu.net/>

## 西村 直

TADASHI NISHIMURA

社会福祉法人 亀岡福祉会  
理事長

## コロナ禍と社会福祉

いつもの道をゆく ぼくの車いす  
遠くから不思議そうに 見つめる君に  
教えてほしいことがあるんだ  
ぼくの命の重さは  
みんなと違うのかな  
ぼくも君にも ひとつずつ  
輝いているこの命  
生まれてよかったと ラララ歌いたい  
この街に生きて  
この街に生きて

これは、亀岡福祉会の「社歌」ともいえる「この街に生きて」4番の歌詞です。

## 仕組みや基盤の脆弱さを映し出す

2020年2月頃から日本も含む世界各国に急速に感染が広がった新型コロナウイルス、国は4月7日東京、大阪はじめ7都道府県を実施区域とした緊急事態宣言を发出、4月16日には京都府を含む13都道府県を「特定警戒地域」に指定して全都道府県に拡大しました。そして、6月、一定の感染収束の中「宣言」を解除しました。

175,021人の感染者、925人の死者(6月16日現在)という未曾有の人的被害と併せて248社の倒産、360社が休業する(帝国データバンク)などの経済的打撃がわずか数か月の間に発生しました。

さらに感染者や濃厚接触者とその他家族、医療従事者等の事業所関係者に浴びせられる心無い差別や偏見の排他的言動等々の事態、また緊急支援と銘打った各種助成金等の支給は遅れに遅れ「緊急支援」にはならない行政システムの脆弱さ、新型コロナウイルスの感染は、亀岡福祉会がめざす「一人ひとりを大切にす差別や排除のない地域を」という社会づくりの仕組みや基盤の弱さを映し出したように思います。

## この街に生きて

「自粛か解禁か」まだ新型コロナウイルスの感染が収まらない時点から激しい議論が交わされました。私なりにこの議論を言い換えれば「命を守るのか経営を守るのか」「福祉政策か経済政策か」という天秤議論のように映ってなりません。最近ではトリアージ(選別する)という言葉が広がっています。医療崩壊に直面した欧米では、障害者や高齢者への治療が後回しにされる「命の選択」が行われる事例が報告されています。「治療を譲る意思カード」(原子力発電協会)などが国も例外ではなさそうです。

冒頭の「この街に生きて」に込めた思いのようにすべての人の命の重みは変わらないことではありません。「命の選択」はあつてならないのです。しっかりとした財政的裏付けをもって「すべての人の命とあわせを守る」仕組みが本来の「福祉」、

新型コロナウイルス感染防止に右往左往したここ数カ月を改めて問い直し確認したことでした。

## ほんまもんの共生社会へ

6月17日閉会の通常国会で「地域共生社会の実現のための社会福祉法の改正案」が閣議決定されました。少子高齢化がいつそう深刻化する中で「互助」の義務化、法人同士の吸収合併を推進してつくる大規模経営組織「社会福祉連携法人」を新設することなどが加わった内容です。法律名称に「共生社会」が盛り込まれています。「この街に生きて」に込めた思いを形にしていく法律であることを願います。

当面、新型コロナウイルス第2波、第3波の襲来がないよう最大限の努力を続けながら、「アフターコロナ」「ポストコロナ」の中身を問いなおし、新型コロナウイルス感染防止策にとどまらないほんまもんの「共生社会」、「福祉」づくりにつながる新しい挑戦の時としたいと思います。

「おはよう！」と今までどおり元気にハイタッチができるようになるまで。

# みんなの“思い”を届けました

## 第43次国会請願署名にご協力いただきありがとうございました!

署名到達：10,079筆

募金到達：309,914円

昨年12月から取り組んできました「第43次国会請願署名・募金運動」にたくさんのご協力をいただき、ありがとうございます。

今年度は「あたりまえに働き、えらべるくらしを」障害者権利条約をすみずみに」をスローガンに、約5ヶ月間取り組みを行いました。

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、自分たちの声で伝える機会となる街頭署名が数回だけしか実施できなかったり、外出自粛で人と会う機会が減り、友人や知り合いに直接障害者福祉の現状や私たちの思いを伝えることがないなど、例年になく取り組みになりました。

そんな中でも日頃からお世話になっている企業や団体、地元自治会などたくさんの方々に協力いただきました。

取り組みの最終盤には、多くの人には会えないけどできる範囲で声をかけていこう! と呼びかけ、毎日メンバー・保護者・職員から署名用紙が返ってきました。

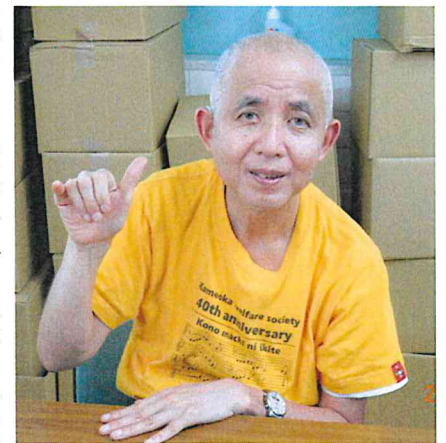
約5ヶ月間の取り組みで、10,000筆を超える署名と、30万円を超える募金が集まりました。今回は残念ながら直接国会議員に会って署名を渡す請願行動は中止になりましたが、240名を超える議員の方に紹介議員になっていただき、全国からそして亀岡からみんなの思いと願いがいつばい詰まった署名を届けました。

障害者権利条約が地域のすみずみに広がり、障害者福祉制度が少しでもよい制度になるために、引き続きみんなで声を上げ続けていきたいと思います!

## 「ちょっと聞いてよ!」

### 第27回

ののぐち まさひろ  
野々口真弘さん  
(かめおか作業所)



野々口さんは、グルームホームあゆみ荘で生活をしながら火、水、木は、かめおか作業所に通われ、月、金は、デイセンターがあればれを利用されています。

野々口さんに「インタビューしてもいいですか?」と尋ねると・・・少し間があり、微笑みながら「お話しよ」と返答があり、色んなことを語ってくれました。

「仕事はどうですか?」

ものすごく楽しい!! ノコちゃん(猪子さん)とペアーで下請け作業の袋入れをしています。

「かめおか作業所で仲の良いメンバーは誰ですか?」

ノコちゃん  
「かめおか作業所で楽しかった思い出は?」

去年、日帰り旅行で神戸に行けて楽しかった。

むかしは、NさんとKさんといっしょに自転車通って楽しかったです。

「休みの日は何をして過ごしていますか?」

ゴロンと寝ながら、テレビを見ています。

キーパー職員のNさんと昔のことを話しています。

「ホームあゆみ荘の生活はどうですか?」

まあまあ。

「夢はなんですか?」

カッコイイ消防士になったかった。けどなれなかった。消防車と救急車が欲しい。

「ひまわりの読者に一言」

これからも、仕事をがんばっていきます。

お母さん思いのやさしい野々口さん。

先日はお母さんにマスクを、今回もクラフトグループの自主製作品でお母さん用のカバンを買いました。カバンと一緒に野々口さんの「ちょっと聞いてよ!」

の記事(ひまわり)も送りますと伝えると、ニコリとしながら昼からもがんばる!と言って仕事に向かいました。

